

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム 真心の里**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念を玄関、事務所などの見やすい場所に掲示し誰でも見れるようにしています。職員同士のミーティングの際に基本理念に基づくサービスの提供について話し合っている。	人間の尊厳、地域福祉向上に尽力する、質の高いサービスの提供などを旨とする法人全体の理念を玄関、事務室などに掲示している。職員ミーティングや日々の支援の中で折に触れ管理者・リーダーが中心となり理念を理解、共有し理念の実践に向けて日々、取り組んでいる。	法人組織の理念を根幹として、グループホームの現状の中で何を大切に何を指すのか自分たちの思いをこめた独自の理念を職員自身の言葉で作りに上げることを期待したい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	・地域のお祭り(お八朔祭り、ジョイ都留祭)等に参加しています。近くの小学校の運動会に参加しています。自治会主催のイベントなども今年から参加しています。近くの商店街を散歩しながら買い物などを行っています。	自治会に加入している。地域に開かれた存在であるべきことを十分に理解しており、多種のボランティアを受け入れている。中・高校生・大学生の来訪、舞踊、和太鼓など月に1回程度は交流の機会がある。また、自治会活動でも神社の清掃に要請され参加、生き生き体操の会場に開放するなど協力しあう関係を楽しんでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・運営推進委員会を中心に認知症についての理解の支援をしています。真心の里主催の認知症サポーター研修なども今後行っていく予定です。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進委員会では、現在の運営状況、活動内容などを報告し、委員の意見や要望などを聞きながらサービス向上に活かしています。 ・施設行事、地域の行事なども情報共有し、地域のとの連携が図れるようにしています。	3か月に1回開催している。事業所の現況や活動の報告を行い、その後、地域包括センター担当者や地域メンバーからの様々な情報が寄せられる。古くからの町で自治会は高齢者が多く、事業所に地域行事の参加・清掃作業の協力要請などもあり、高齢者に向けた地域の拠点としての取り組みを進めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・市の担当者とはつねに情報交換を密に取り、報告や指導を受けています。 ・市主催の研修なども参加し、担当者とも顔の見える連携をとっています。	市の主催する研修会、法人主催の研修会など相互に協力しあっている。事業所としての対応や制度上の問題などがあれば相談、アドバイスを受けている。また、市の認知症サポーター研修、認知症カフェなどへ協力を予定するなど連携に向け努力している。機会のあることに担当者と顔を合わせ関係作りを心掛けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・今年の4月に同法人のGHと身体拘束委員会を立ち上げて活動しています。また、日々のケアにも職員同士が身体拘束につながらないように意見交換しています。	市内にある同一法人が運営する2つのグループホームで身体拘束委員会を発足した。委員は指針作りを手始めに他市での研修会へ参加し、学んだことを持ち帰り全職員に伝えている。スピーチロックは入職時の研修、日々のケアの中で管理者・リーダーが指導している。また、職員同士でも注意し合える環境が作られている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・虐待については管理者、職員同士が話し合いなどを通じて、虐待に関する知識、認識を深め虐待防止に取り組んでいます。 ・職員間でも虐待について気づいたことを話し合い意見交換しています。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・成年後見制度については職員が県、市町村が開催する研修に参加したり、市町村の担当者と必要時に報告、連絡、相談し情報共有しています。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時には、自宅訪問または直接施設に来てもらい、契約の締結、解約の説明、重要事項の説明をし、同意を得ています。 ・本人、家族に不安、疑問がある場合には納得いくまで話し合いをし、理解を得ています。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム 真心の里**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご家族の来所時にサービス内容、日ごろの様子などを話をしています。その際には、家族、本人の意見やご指摘をくみ上げるようにしています。 ・利用者、家族の方のご意見、不満が聞けるように入口に意見箱を設置しています。	家族の面会時には利用者の暮らしぶりや健康状態などを報告している。月毎に利用料の支払いのため来訪するので親しく気軽に意見や要望を聞いている。「玄関にチャイムが必要」との要望にチャイムを設置「身体機能の低下が不安だ」との声には、レクリエーションに機能向上の内容を取り入れるなど直ぐに意見を反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・年に2回全スタッフに対してアンケートを実施し、管理者との面接を行っています。管理者との面談は個々で必要において行っています。 ・毎月法人全体で代表者会議を開催し、職員の意見を反映できるようにしています。	年4回、職員へのヒヤリングがあり、内2回は施設長、もう2回は管理者が行っている。法人内での移動・雇用形態の変更などの希望も出せる場が用意されている。また利用者への支援方法や備品、外出・レクリエーション・献立などの提案や意見また、要望は常に出されており、より柔軟に反映、対応がなされている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・年2回施設長面接の実施で、努力や実績の評価や業務への要望の聞き取り等を行っています。また、法人全体で勉強会や行事などを開催し、向上心を失わないように明るく楽しく働けるように努めています。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部研修の参加および内部研修(認知症研修、感染研修など)に参加しています。 ・資格試験には資格取得のため研修費を負担しています。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・研修時には他施設職員、ケアマネージャーと積極的に交流し、意見交換をしています。 ・他施設の訪問を受けたり、訪問して意見交換などができるようにしています。			
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・管理者が自宅、他施設に訪問し、現在本人が困っている事、不安に思っている事を伺っています。入居前には本人及び直接施設に来てもらって、いろいろな相談を受けています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入居前に管理者がご家族の困っている事、不安に思う事などを施設に来てもらい、直接伺っています。 ・家族との連絡を密にし、ご家族の不安、要望などを傾聴、理解しながら安心していただけるように配慮しています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・見学、相談の際には介護サービス利用に向けて本人、ご家族の不安や相談を受けています。本人、ご家族の要望に沿った介護サービスの提案をしています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・利用者、職員が「共に生活する」と言う考え方で、介護するのではなく出来ないところだけ職員が手伝いながらケアさせてもらっています。			
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・利用者を中心にご家族、職員が蜜に連携を取りお互いの思いを共有しながら支えています。 ・ご家族の訪問時は、利用者の様子などもお伝えしています。 ・家族との絆が深まるよう積極的に外出、外泊を支援して			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム 真心の里**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・近所の馴染みの商店街に買い物に出かけたり、馴染みの理容店、八百屋を利用しています。 ・馴染みの人との面会も積極的に支援しています。	以前からこの地域で暮らしてきた利用者が多く散歩や買い物など、外出先で馴染みの人に会うことも頻繁にあり会話を楽しんでいる。生活背景を把握し馴染みの人との関係が途切れぬよう家族を通じて馴染みの人に働きかけている。利用者の方を見極めながら力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援も行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者の尊厳、生活歴、個々の生活などを考慮しながら利用者同士が良好な関係が作れるよう支援しています。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所された利用者は、同法人の特養入所が多いので常時、情報共有、連絡、相談を行なっています。 ・退所後のご家族の相談も行なっています。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・本人の思いや生活歴を把握しながら職員同士話し合いを持ちながら支援しています。把握が困難な場合には計画作成者、職員が話し合い本人に合ったケアを検討しています。	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望の把握に努めている。一人ひとりのペースを大切に、その日を、この時を、どう過ごしたいかを常に考え、決められた日課・時間に囚われず、その人らしい暮らしを支えることを大切に支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・家族の情報、本人の何気ない会話からその人がどのような生活をしてきたのかを把握しています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・一人一人の日々の過ごし方、心身の状態等を観察し、その都度記録しその都度記録しています。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・日々の職員同士のミーティング、担当者会議等で意見、アイデアを出してもらい介護計画に反映しています。	入居時の家族・本人とのインテーク面接は職員2人で行い面接後に意見交換しながら介護計画を作成しその後、半年に1回見直している。ケアマネジャーが現場に入り職員意見は常に把握し、往診医、法人内の看護師の意見も反映している。家族とも毎月の支払いに来訪した際に意見を聞いて介護計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の生活の様子や特記事項などは介護記録に記入し、その情報を基に職員同士が情報共有、意見交換し介護計画を見直しています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・本人、ご家族の希望を取り入れ、その状況に応じたサービスの提案をしています。 ・本人、家族のニーズに対応できるようにしています。特に医療連携などは積極的にを行っています。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム 真心の里**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・近くの馴染みのある商店街を歩いて買い物に出かけたり、ファミレスなどに食事に出かけたりしています。 ・今年度は月に1度のペースで地域ボランティアに来てもらい活動を行っています。 (和太鼓、子供クラブなど)			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人と家族の意向が沿うように、かかりつけ医、専門医と連携をとりながら支援しています。 ・家族、本人の意向により現状は施設への往診医(内科医師)が主治医となり支援しています。	入居時に家族・本人の希望に添ったかかりつけ医にて診療を受けている。現在、全利用者が往診医による診療を週1回受けている。歯科、皮膚科、整形外科などの専門科への受診は家族対応が基本だが、家族の都合や病状によりケアマネジャーでもある管理者が同行し、受診支援にあたっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・日々、併設の特養看護師と連携をとりながら適切な看護、医療が受けられるように支援しています。 ・往診医と情報を共有して医療的な支援をしています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	・入院時は各医療機関のSWや看護師と情報共有し、連携しています。入院中もケアマネが病院に訪問し、本人、家族の要望、相談にのっています。退院時には退所前カンファなどを行なっています。 ・近隣の各医療機関のSWとの関係作りを行なっています。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化した場合、終末期のあり方について入所時に事業所としての方針を説明しています。また、家族の考え方についてもその都度確認しています。 ・本人、家族、往診医、事業所で早い段階から終末期の方針を情報共有し病院移転や特養の転居などを提案し、支援しています。	グループホームは3階建物の1階にあり2、3階は特別養護老人ホームとなっているため同一法人内で医師・看護師との医療連携は万全である。入居時から重度化した場合の指針は説明してあり家族の考え方を確認している。状況変化に応じた話し合いを行いながら家族の思いを尊重し、納得した状況で最期を迎えられるよう支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・利用者の急変や事故発生に備えて、適切な応急処置や救急対応が出来るように話し合い対応しています。 ・緊急時には同施設内の職員にも応援してもらうような体制を整えています。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・火災を想定した訓練を併設の特養と年2回避難訓練を行なっています。夜間想定した避難訓練もGHの職員で実施しています。	年4回訓練を実施。内2回は併設の特別養護老人ホームと合同避難訓練を実施している。他に年2回夜間を想定した避難訓練を事業所独自で行っている。いずれも火災を想定し通報、避難方法などをマニュアルに沿って訓練している。建物内に専任の当直の配置、2、3階の職員との協力体制は職員の安心感に繋がっている。	消防署の協力を要請し、災害時の避難方法、初期消火などの指導を受けるなど、いざという時に職員が適切な対応ができるよう、現場で徹底して体得するよう期待したい。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・利用者一人ひとりの人格を尊重して利用者のプライドやプライバシーを損ねないような言葉使いをしています。 ・ケアファイルなどは外部の人に目が見えないようにしています。	母体法人主催の研修が年2回あり、接遇や認知症についての学習をし全職員が利用者の誇りやプライバシー確保について理解している。本人の自己決定を促し意思を尊重した支援を心掛けている。言葉遣い、名前の呼び方などひとり一人の好みに合わせて接している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・様々な場面で、本人の意思決定できるような言葉かけを行なっています。本人の意思を尊重してケアを行なっています。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム 真心の里**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・利用者本位の日々の暮らしが出来るようにケアしています。 利用者がやりたい事、出来る事を職員同士が意見交換しながら日々の暮らしを送っています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・本人がおしゃれを楽しめるように支援しています。衣服等は家族に協力してもらい馴染みの衣服、おしゃれな衣服を用意していただいています。 ・2ヶ月に1度近隣の理容店に訪問してもらい、その方にあったスタイリングをしています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・ミニ菜園で収穫した野菜、家族、職員が持ってきてくれる野菜等季節応じた旬の食材を提供しています。 ・献立はその日に利用者が食べたいものを提供しています。 ・食事の後片付けなどは、利用者が率先して手伝ってくれます。	食事は事業所内で利用者、職員が関わりながら作り、献立もその日の希望、地域の方からの頂き物などを考慮して調理している。ごく普通の家庭であることを大切にしており、利用者の喜びになっている。食事中も味付けや食材について、刻み方などと話しが弾み、食べる意欲や食べる楽しみに繋がっている。季節行事を大切に月見団子やおはぎ作りなど利用者と一緒に作り楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・利用者一人ひとりに応じた食事量を提供しています。利用者の体調に応じて刻み食、粥食など食事形態を変えています。 ・記録を通じ一日の摂取量を把握しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・食事後の口腔ケアの声かけを行なっています。歯磨き後には職員が歯磨きチェックを行なっています。 ・必要に応じて近隣の協力歯科医の往診を行なっています。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄の失敗が無い様に一人一人に合わせた排泄パターンを把握して誘導を行っています。	利用者一人ひとりの排泄パターンを全職員が把握しており、それに合わせた支援を行っている。ほぼ8割の利用者がトイレ誘導を必要としているが各居室にトイレが設置してあり本人の生活リズムにそった支援が可能である。失敗した場合でもプライバシーや尊厳に配慮した声かけで自室に誘導し着替えなどの支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・定期的に自然排便ができるように適度な運動、食事、水分摂取を行なっています。 ・ひどい便秘の場合には、看護師、主治医と相談しながら対応しています。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・週2回と決めているが、本人の希望であれば入浴したいときに入浴してもらっています。	入浴時間は午後1時30分から3時までで、週2回の入浴になっているが希望があれば対応はできる。嫌がる利用者には声をかける職員・タイミングを変えるなど工夫して対応している。同性介護の希望にも対応しているが希望者は一人のみで職員配置に支障はない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・一人ひとりの生活習慣にあわせて、本人のリズムに合わせて静養してもらっている。特に消灯時間は決めておらず本人のペースに合わせています。 ・夜間ゆっくり眠れるように日中は体操、散歩などをし活動を支援しています。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム 真心の里**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・確実に内服できるように職員全員が薬の目的などを理解して介助しています。 ・体調の変化が見られた場合には、主治医に連絡し指示をうけています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・季節行事やボランティアなどを活用して楽しみ事を支援しています。 ・日々の生活に張り合いがあるように利用者の出来る事探して、家事手伝いやウエス作りなどを行なっています。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・場所柄ならげなく外に散歩できる環境なので、希望により近くの小学校、商店街等に散歩に行き地域の皆さんと挨拶したり、会話したりしています。	ほぼ毎日散歩や買い物に出かけている。事業所が地域コミュニティの中にある利点を職員は理解しており、日常的な外出を、利用者の馴染みの関係の継続にも繋がる支援にしている。家族との外出や外食なども協力を促している。イチゴ狩り、花見、ブドウ狩り、紅葉狩りなど季節ごとの楽しみを支援している。実家を見たいなどの希望も個別支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・金銭は基本的に管理者が行っているが、本人の希望、家族の了承によりお金を所持して利用者もいる。 ・近所の商店街では職員と一緒に行き、個人で支払をすることもある。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・手紙、電話は自由に出来るように支援しています。電話は家族の了承を得ていつでも出来るように支援しています。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節感を感じられるような作品を利用者と一緒に作成し飾っています。利用者が快適と感じられるように音、温度、明るさなどに配慮しています。	壁には季節ごとに貼り絵作品が飾られ、利用者一人ひとりが書き上げた作品が飾ってある。食堂から広々とした厨房が見渡せ、食事作りが難しくなった利用者にも様子が伝わってくる。利用者が一日の大半を過ごす共同室からは道路を歩きかう人が見え、これまで暮らして来た居住空間と違和感なく過ごしている。温度、明るさなど配慮し快適な空間になっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・共有スペースでは気のあった利用者同士でゆったり過ごせるように支援しています。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・自宅生活しているように、本人の自宅あった家具、馴染みのものを持ってきてもらい自分らしい居室にしてもらっています。	居室ごとに備えられたトイレ、洗面台は広々として清潔に保たれている。電動ベッド、寝具は事業所の備え付けで建物全体の冷暖房システムが設置されている。好みや居心地よく過ごせることを大切に整えられた居室は家具や写真が飾られた部屋、スッキリとした雰囲気のある部屋など、その人を感じる空間になっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・建物内部は全面バリアフリーになっています。トイレ、廊下、浴室には手すりがついています。			